

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25420634

研究課題名(和文)近代仏教建築の展開とアジア/亜細亜の形成・離散

研究課題名(英文)Dynamisms of Modern Buddhist Architecture over Asia

研究代表者

山田 協太 (YAMADA, KYOTA)

京都大学・地域研究統合情報センター・特任助教

研究者番号：40434980

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀に南アジア、東南アジアから日本を含む東アジアまでを横断的に接合する思想的媒体へと成長した近代仏教に着目し、その思想を物理的に体現した寺院や仏教協会施設などの近代仏教建築の形成と今日的展開をアジア大のスケールで跡付けた。コロンボ、コルカタ、ヤンゴン、バンコク、シンガポール、京都を中心に、近代仏教運動の拠点となった都市ごとの、近代仏教建築の建設とそれをつうじた都市景観の変容を明らかにし、加えて、同時代的交流をつうじた都市間相互の影響関係を明らかにした。さらに、それぞれの都市ごとに近代仏教建築をつうじて目指された方向は異なったことを示し、アジアの各都市の今日的動態の中での京都の位置を論じた。

研究成果の概要(英文)：In 19th century, Modern Buddhism was an arena that connected whole Buddhist world consists of South Asia, Southeast Asia and East Asia. This study focused on Modern Buddhism architecture which shows idea of Modern Buddhism through physical shape. Major target cities of this study were Colombo, Kolkata, Yangon, Bangkok, Singapore and Kyoto. These cities were hub cities on Modern Buddhism movement in the 19th century Asia. This study clarified each city's historical formation of Modern Buddhism architecture and transformation of urban landscape through construction of Modern Buddhism architecture. At the same time, this study clarified influences of contemporary interactions between these cities on formation of Modern Buddhism architecture. Dynamisms of Modern Buddhism architecture give us some perspective on these cities' different and own development paths and influences between each other. This perspective helps us to understand each city's position in Asian context.

研究分野：地域研究、地域生活空間計画

キーワード：近代仏教建築 都市景観 建築様式 仏像、神像、霊木 コロンボ コルカタ バンコク 京都

## 1. 研究開始当初の背景

昨年度までの科学研究費助成研究でおこなってきた、空間において生起する出来事や事象を、人、モノ、言葉の異種混交のネットワークとして捉え、それらを動態として記述、分析する手法であるアクターネットワーク論 (Latour, 1993) を基礎とした、スリランカの植民都市コロomboとその居住地の、植民地以後の展開の研究から、19世紀の都市と居住地の形成に果たした宗教、信仰の重要性が浮かびあってきた。とりわけコロomboでは、近代化の中で再編された新たな仏教が主要な役割を果たした。新たな仏教は今日のコロomboの都市の動態にも大きな影響を与えている。

今日の日本に目を転ずると、宗教、信仰は都市や居住地の形成において、必ずしも大きな役割を果たしているとは言えない。ところが、19世紀を見ると、京都、東京では、西洋化とは異なる、仏教を基礎とした近代化の動きが見られた。コロomboの植民地以後の変容からアジアの近代を捉えなおす視点をつうじて、仏教を基礎とした近代化の動きが、19世紀のアジアで広く共有されていたことがおぼろげながら浮かび上がってきた。

以上の経緯から、新たな仏教とその仏教建築をつうじてアジアの近代を捉えなおし、日本をその中に位置付けながら、現代アジアを理解する研究を構想するに至った。

## 2. 研究の目的

19世紀は、「近代」の担い手を自任して著しい空間的拡大を見たヨーロッパ世界に対して、各地でそれぞれのアイデンティティ構築が模索された時代である。本研究は、この局面をつうじて各地でキリスト教布教への対抗運動として生成し、南アジア、東南アジアから日本を含む東アジアまでを横断的に接合する思想的媒体へと成長した新たな仏教である、「近代仏教」に着目する。近代仏教は、概念としてのアジア/亜細亜を実体化

する主要な実践の1つであった。本研究では、近代仏教の思想を物理的に体現した、寺院や教団施設の建築を近代仏教建築と呼ぶ。近代仏教建築は19~20世紀をつうじてさまざまな宗派によって各地で建設された。各地における近代仏教建築の成立と相互の影響関係を跡付けて地域景観史を描き、各地域の位相と連環、国民国家成立後の展開を浮かび上がらせる。

## 3. 研究の方法

昨年度までの科学研究費助成研究でおこなった手法を踏襲しつつ、本研究では、対象とする近代仏教建築とその歴史的展開を、空間において生起する出来事や事象を、人、モノ、言葉の異種混交のネットワークとして捉え、それらを動態として記述、分析する手法であるアクターネットワーク論 (Latour, 1993) を基礎として分析する。具体的には、(1)モノとしての近代仏教建築、(2)言葉を介して思想が交わされる場としての教団、仏教協会などの近代仏教組織の機関誌、および(3)それらを構築、編成した僧や市民仏教家などの具体的人々の結びつきに着目し、その総体を近代仏教世界として捉える。

さらに、物理的環境と人の記憶や思考が融合した存在としての「景観」を焦点として、近代仏教世界と世俗の世界との相互作用をつうじて生まれる都市の動態を捉える。

具体的には、対象とする都市ごとに、(1)近代仏教建築の建設をつうじた都市景観の変容を跡付け、(2)そこから近代仏教建築の建設に伴う、都市における近代仏教世界と世俗の世界それぞれの動態と相互の影響関係を読解し、(3)近代仏教世界と世俗の世界のそれぞれに、互いの影響を受けながら新たな動態が生まれる、循環的過程を跡付ける。

対象とした都市は、近代仏教の運動の展開する主要な拠点となった、コロombo (スリランカ)、コルカタ (インド)、ヤンゴン (ミヤ

ンマー)、バンコク(タイ)、シンガポール(シンガポール)、京都、東京の7つである。とりわけ、コロンボ、バンコク、京都に重点を置いた。

調査は、各都市における近代仏教世界の動態について集中的におこない、世俗の世界の動態については、主としてこれまで蓄積してきた研究の成果を参照した。

#### 4. 研究成果

各都市で、近代仏教建築として、寺院と仏教協会という主要な2種類の施設の建築を対象として、その施設の立地、構成、設立年、設立者、および、個々の建築の建築様式、平面構成、構造、施設内に祀られる像、樹木について調査をおこなった。また、仏教宗派、仏教協会の機関誌を収集するとともに、近代仏教運動に関わった人々の雑誌記事、日記を収集した。これらを近代仏教世界の分析資料とし、あわせて、新聞記事、既往の研究の収集をつうじて、世俗の世界の政治、経済、社会の分析資料とした。資料の分析から、仏教協会の機関紙と新聞、日記の記述は、近代仏教世界と世俗の世界の双方に跨り、2つの世界の相互の影響関係を把握する上で重要な資料となることが判明した。

調査をおこなった7都市に建設された近代仏教建築の建築様式に着目すると、(1)自国の在来の仏教建築をモデルとする様式、(2)古代仏教様式やインドに由来する様式、(3)キリスト教の教会堂など西洋建築に似せた様式、(4)特定の様式を持たないもの、の4種類がみられることが明らかとなった。それぞれの都市が(1)~(4)のすべてを備えているわけではなく、また様式の多少は都市によって異なる。

都市ごとにみられる、近代仏教建築の建築様式のばらつきは、その都市の位置する世俗の国家や植民地政府と、近代仏教(仏教を担う僧の組織と、在俗の市民仏教家)との関わ

り方、ならびに、近代仏教を介した都市間の交流の在り方、を反映したものとして理解できる。

コロンボ、バンコク、京都、東京では、19世紀をつうじて、国家と仏教との関わりが密だった。他方、コルカタ、ヤンゴン、シンガポールでは、国家と仏教との関わりは密ではなかった。(1)自国の在来の仏教建築をモデルとする様式は、国家と仏教とが密な関わりをもった都市で重要な位置を占め、国家を支える仏教、あるいは仏教を基礎とする国家の象徴として、多数建設された。(2)の古代仏教様式やインドに由来する様式の仏教建築は、歴史的経緯の中での、上座部、大乘という仏教の分岐を越えて、相互の連携を呼びかけるものだった。とりわけ、コロンボ(ブディスト・テオソフィカル・ソサエティ本部)、コルカタ(マハーボーディ・ソサエティ本部)、京都(二楽荘)、東京(築地本願寺本堂)という、近代仏教をつうじて新たに国際関係を模索した都市で、中心的施設に用いられた。(3)のキリスト教の教会堂など西洋建築に似せた様式は、ヨーロッパの思想やキリスト教の儀礼を参照した新たな仏教を象徴するもので、植民地において在来の仏教が姿を消した都市(コロンボ、ディーパドゥッタラーマヤ仏堂)や、新たに仏教の担い手として現れた市民仏教家の活動の盛んだった都市(コロンボ、サーヴァント・オブ・ブッダ・ソサエティ本部/バンコク(ワット・ポウォーンニウエート僧房))にとりわけみられる。(4)の特定の様式を持たないものは、国家統合で仏教が主導役割を担うことがなく、様式という旗印を必要とされなかった、シンガポール、ヤンゴンの特徴となっている。

さらに、重点的に調査をおこなったコロンボ、バンコク、京都について同時代的文脈の中で相互の関連と相違を考察する視点を得た。3つの都市は、いずれも19世紀に仏教と国家との関わりが密だった都市である。近代

仏教建築の立地、建築の規模、建築様式から都市景観の変容を比較することで、3都市の特徴が把握できる。

コロンボは植民地の都市であったのに対して、バンコク、京都は独立した国家の都市だった。コロンボでは、19世紀はじめまで、非・仏教の植民地文化が主流だった。19世紀後半から、植民地文化から距離を置く独自の文化が探求される中で仏教が多数派市民の拠り所となり支持を集め、仏教寺院が都市の中心部に立地するようになった。また、新しいもの程古い様式で建てられるようになる。この過程で、市民仏教家の主導による仏教を基礎とした海外との関係構築が模索され、コルカタ、京都、バンコクとの交流が生まれ、古代仏教様式の近代仏教建築が建設された。1948年の国民国家の発足とともに仏教は国家の象徴的建築となり、新しいものほど建築の規模は大型化した。コロンボでは国民国家の発足後に、スリランカ古代のモニュメンタルな仏塔が中心部に建つ、仏教的な都市景観が生み出された。

バンコクは、18世紀末から新しく首都として建設された。王自身が世俗の仏教家として仏教を支援し、歴代の王によって19世紀をつうじて都市の中心部に大規模な仏教寺院が建設された。中心部の各所にモニュメンタルな仏塔が建ち、仏教的都市景観を形成するようになった点はコロンボと同様だが、今日に近づくに従って、王立寺院では、世俗の都市開発や経済効果の視点が重視されるようになり、その立地は都市周辺部となり、規模も縮小している。他方で、民間での盛んな仏教信仰を背景として、寺院の建設をつうじて、バンコクでは今日でも周辺に向かって仏教的都市景観が拡大し続けている。コロンボや京都と異なり、仏教を通じた国際交流を、仏舎利や経典の贈答をつうじて途切れなくおこなってきたため、19世紀に新たに古代仏教様式の近代仏教建築を用いることは稀だっ

た。

京都は、19世紀に先行する長期間にわたって仏教の中心地だった。1868年の明治維新の廃仏毀釈後、仏教は国家の庇護を離れる。仏教各宗派は自身の新たな存立基盤を模索する中で、アジアとの歴史的関係を見出し、京都の内外にインドに由来する様式の近代仏教建築が建設され、インド風の景観が生まれた。同時に、仏教各宗派は、その後も国家との新たな関係づくりの働きかけを続け、19世紀末には、国家の中で一定の役割を担うようになる。この過程で、仏教は、東洋学や宗教学といった当時のヨーロッパの学問を、自己の正当性の基盤とするようになる。他方で、国家から国家の象徴として寺院を建設する働きかけはなかった。市民仏教家も台頭するが、既存の宗派と対立することもあり、近代仏教の統合的な流れが生まれることはなかった。各宗派は支持基盤と財政的許容範囲内で既存の寺院の維持を中心におこない、大規模でモニュメンタルな新たな仏教建築が普及することはなかった。インドに由来する様式を持つ近代仏教建築は構造や内装に木を使っていたため、多くは焼失した。第二次大戦後、宗教と世俗の生活との分離がおこなわれたことで、宗教と世俗をつなぐ市民仏教家の活動は沈潜化した。今日の京都に仏教寺院は多数存在するが、仏教を前面に出した都市景観が形成されることはない。

施設内に祀られる像と樹木に着目すると、バンコクの寺院には、上座部仏教の仏像に加えて華人の信仰する大乘仏教の観音像、道教の神、土地の精霊など多数の像や霊木が混在し、歴史的に様々な信仰が混淆して成立した、信仰の実践が継続してきたことがわかる。寺院における多様な像や霊木の共材は、信仰の異なる多様な人々に、日常的な接触の機会をもたらしている。

他方で、植民地文化を基礎としながら仏教復興をしたコロンボでは、ヨーロッパの学問

を基礎として仏教の再建がおこなわれ、古典的文献に価値を置くヨーロッパの学問の価値を背景に、混淆していた仏とヒンドウの神を、経典を根拠として分離する、仏教の原理化が進行した。仏とヒンドウの神との分離は、信仰の異なる人々の日常的な接触機会の喪失と、民族集団の形成につながったと考えられる。

神仏分離のおこなわれた京都でも、寺院と神社が分離し、それぞれの原理化と互いの競合関係が生じた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

山田協太、「近代仏教建築の形成とアジア/亜細亜の形成・離散 その1: コロンボ(スリランカ)の近代仏教建築」、『平成25年度日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画)』、2005年、pp.433-434、査読なし

山田協太、「近代仏教建築から見る南アジア～東アジアの交流と都市景観形成」、『シンポジウム「近代建築史の最先端」第十一回論文集 東アジア近代建築史研究の回顧と展望:『東アジアの近代建築』から30年』東京、2015年、pp.29-30、査読なし

山田協太、「近代仏教建築の東アジア - 南アジア往還」、『アジア遊学』、196号、2016年、pp.87-105、査読あり

山田協太、「フラグメンテーションと出会いのインド洋: ナゴール・ダルガーをめぐる考察」(NIHU Research Series of South Asia and Islam,9) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、2016年、pp.67-85、査読なし

[学会発表](計 5件)

山田協太、「近代仏教建築の形成とアジア/亜細亜の形成・離散 その1: コロンボ(スリランカ)の近代仏教建築」、『平成25年度日本建築学会大会』、2013年、神奈川

山田協太、「コロンボの下町からスリランカを眺める - ナショナリズム、経済開発と日常生活の展開」、『社会経済史学会次世代研究者育成ワークショップ』、2014年、大阪

山田協太、「近代仏教建築から見る南アジア～東アジアの交流と都市景観形成」、『日本建築学会近代建築史小委員会シンポジウム「近代建築史の最先端」第十一回論文集 東アジア近代建築史研究の回顧と展望:『東アジアの近代建築』から30年』、2015年、東京  
Kyota YAMADA、"Modern Buddhism

Architecture in Japan and its Linkage to Contemporary Asian Buddhism Movement: Indian Ocean Network and Kyoto”、Buddhism and Contemporary Living Environment over Asia、Center for Integrated Area Studies, Kyoto University、2016、Kyoto

山田協太、「近代仏教建築のつくる都市景観から見るコロンボとアジアの都市間ネットワーク」、『東南アジア学会第95回研究大会パネル7 都市誌の可能性 都市を地域研究するとは?』、2016年、大阪

[図書](計 3件)

深見奈緒子、山田協太、内山愉太編、『居住環境類型からメガシティのグローバルな連環と動態を捉える』、『総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト』、2014年

山田協太、「コロンボ(スリランカ)下町での地域学習施設開設プロジェクト: 日常のデザイン行為から地域居住環境を考える」、『谷川竜一/原正一郎/林行夫/柳澤雅之、『相関地域研究3 衝突と変奏のジャスティス』、青弓社、2016年、pp.186-211

深見奈緒子、山田協太編、『南アジアの都市と建築に見るイスラームの諸相』(NIHU Research Series of South Asia and Islam,9) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、2016年

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

山田 協太 (YAMADA Kyota)

京都大学・地域研究統合情報センター・特任助教

研究者番号: 40434980

##### (2) 研究分担者

池尻 隆史 (IKEJIRI Takashi)

近畿大学・建築学部・講師

研究者番号: 10408718